

第1回 倉敷市水道事業経営審議会会議録

1 日 時 令和3年9月21日(火) 14時00分～16時00分

2 場 所 水道局3階大会議室

3 出席者 出席委員11名

戸前会長, 近藤副会長, 内田委員, 尾跡委員, 児玉委員, 後藤委員, 竹田委員
長沼委員, 原田委員, 山野委員, 山部委員

事務局13名

古谷水道事業管理者, 加藤参事, 高旗参事, 大森副参事兼課長, 橘鷹副参事兼
課長, 鷺尾課長, 森兼課長代理, 岩知道課長, 末澤副参事兼課長, 野上課長代
理, 大橋課長, 石井主幹, 小河原課長主幹兼室長

4 会 議

(1) 議 事

ア 倉敷市水道事業の概要

イ 水道局各課業務について

<質疑>

委 員 漏水調査についてですが, 水道管の老朽化はどの地域が多いのでしょうか。

事務局 特にどの地域が多いということではなく, やはり全体的に老朽化が進んでいます。

そうした中, 水道局で優先順位を決めて, 重要な管路から耐震化する事業を行っています。

委 員 素人考えだと, 旧倉敷市とか, 早めに水道管を設置, 配管したところから老朽化して
いくのではないかと思うのですが, そういうことではないのでしょうか。

事務局 もちろん耐用年数がありますので, 耐用年数が経った所から優先して行っていくよ
うにしています。

委 員 工事の優先順位ですが, どのように決めているのでしょうか。

事務局 管が古い所や, 人口が密集している所, 例えば病院とか学校といった重要施設があ
るような所を総合的にみて, 優先順位をつけて整備を行っているところです。

委 員 そうすると, やはり水道使用量の多い所からという感じになりますか。

事務局 結果的に病院等があれば、そういった面もあるかとは思いますが。

委員 倉敷市として運営している浄水場の割合の中で、伏流水はかなり多いと思います。今日配られたペットボトル水「くらしきの水」も伏流水だと説明されたと思います。議事の説明の中で「安全」、「安心」と「おいしい」の3つの言葉が必ず出てきました。

「安全」、「安心」に関しては、先程のご質問にもあった老朽管更新とか、将来を見据えてとか、あるいは施設のダウンサイジングをして効率的に運用していくということである程度は理解できます。

しかし、「おいしい」という付加価値を担保しているものはいったい何だろうと思いましたが。少し誤解していたのが伏流水というものは、例えば大山くらいの山系の方からずっと深層を通過して湧いてくる水と長らく思っていたのですが、今日の説明では堤防の川側にある所から湧いてくる水ですということでした。

この水道ビジョンを見ると、伏流水は地下水よりも少し高めリスク管理がいているということが書いてありましたが、どういった形でおいしさを担保するのかを少し伺いできたらと思います。

事務局 今ご質問にありましたが、雨が多い時等は影響が出る可能性がありますし、それは伏流水に関しましても同様です。本日お配りしたペットボトル水は船穂の取水場、いわゆる伏流水から作らせていただいたものになります。船穂の伏流水は上成浄水場を経て玉島地区に水道水として配らせていただいています。

当然今ありましたようにリスクを背負っているわけですが、それに対しまして我々としても若干の影響を受けるということはあると思いますが、そこまでの影響は今現在としては受けていません。

しかし、それらについては我々も危惧しているところではありますので、今後より品質を高めるためにどうしたらいいか、どういう施設とするかということを検討しているところがございます。品質を高めるために努めてまいりたいと思いますので、今後を見ていただければと考えます。

委員 承知いたしました。

委員 数か月前、テレビで災害に強い送水管ということで、色々テストをしているのを見ました。かなり太いポリエチレン管の真ん中を重機で持ち上げてもグニャリと曲がり決して折れないとか、水道管で弱いとされる継ぎ手の上を重機が走行しても管の表面

に少し傷がつく程度で壊れないとか、その上に非常にすばらしいのが今までの鋼管に比べて値段もかなり安いということで、今後はこういった管になるでしょうということでした。日本のどこかで小さいものも含めると毎日地震が起きている中で、倉敷市が使用している耐震管というのはどういったものを使っているのでしょうか。

事務局 現在水道局では、400mm以上の大口径管並びに400mm以下100mmまでの管はダクタイル鋳鉄管というものを使っています。50mm, 75mmはHPPPEの管を使っていますので、委員さんが言われたような管は倉敷市では使ってはいません。管の継ぎ手の方が耐震管でないと地震が起きた時に抜けてしまうので、倉敷市では継ぎ手が抜けないような鋳鉄管を使用しています。鋳鉄管のGX型, NS型という管を現在使っていますが、それは地震が来ても継ぎ手部にロックが掛かって外れないような仕組みになっています。

委員 新しい管は検討されていますか。

事務局 継ぎ手の方はだんだん良い物ができておりますので検討はしておりますが、管自体はダクタイル鋳鉄管というものを今は使用しております。

(2) 今後の日程について

事務局 今後の審議会の日程ですが、11月頃に第2回審議会を、そして来年2月頃に第3回審議会を開催させていただく予定にしております。次回の日程については、改めて調整し、できるだけ早めに委員の皆様にご連絡させていただく予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況次第では、日程が変更になる場合もございますので、ご了承ください。

令和3年10月12日

代表署名人

戸前 寿夫